

## メーブルレター (2)

### 巷は祭り

カナダは、今年建国150年にあたります。首都オタワには50カ国の大使館があり、交代で毎月お国柄のある行事を企画してお祝いしているのだそうです。「秋には日本の番が回ってくるので、僕も何かすることになるのかも。。」とはオタワの知り合いのお花の先生からの一言。

私の住むオールドモントリオールは港に面していますが、港はカナダの国に属し、150周年の祝い行事があれこれ企画されています。美しい港町通りには、古い石作りの建物が立ち並び、世界遺産に登録されています。ここからケベック州になります。ある日、この港町通りを歩いていたリヨンの市長が

「ここってライトアップしたらどう？」

「それはいいかも」

と、同行していた当時のモントリオール市長は有言すぐ実行し、古い建物がライトアップアップされることになったようです。夜道は美しいですよ、ふわーっと古い建物が光を受けて浮かび上がっています。その向こうの港には豪華客船が泊まっていたりもします。

この一角は、その昔、ヴィルマリーと言われたモントリオール市発祥の地です。モントリオール市は今年375周年を祝っています。と、いうわけで、この界限は、道を隔てて、国と市の祭りだらけです。

ヴィルマリーといわれた頃は、この世界遺産の通りまで、セントローレンス川が流れていました。水がすぐ目の前まであり、港に出入りする船の税関があり、倉庫が立ち並び、その向こうにコロニアルスタイル、ビクトリアンスタイルやアールデコの建築様式の銀行が立ち並び、経済の中心地だったようです。1世紀を経た今や、粋なホテルやコンドミニウムに姿を変え、シックな様相の一角となりました。

時として向かいのホテルで夫とランチをし、そのワンプロック先のケーキ屋さんでお茶とコーヒーなどということもあります。カナダで最初の税関の道向かいに古い建物を買い取ってケーキ屋さんを開いたのは、フランスケーキ大賞をとったことのあるパテシエです。コルドンブルーの上着を着て、お客様を迎えることも少なくありません。地下はケーキ製造兼ケーキ学校。いつも美味しい出来立てのケーキの香りが漂っています。働いている人たちは、皆、フランス人で、全てがフランス風。夫は、ここにパリを見つけにきます。ふるさとのフランス語を聞きに来ます。

ある日、ケーキと濃いめのコーヒーを楽しむ、我ら老父婦の隣のテーブルで、しっかり冷やした高いシャンペンを注文をして、誰かを待ち続けるサラリーマン風の人がありました。じっと待っ

ています。15分ほどして現れたごく普通の背広姿のもう一人のサラリーマン。二人はケーキを注文すると、シャンペンを勢いよく抜いて、細かい泡のたつシャンペングラスを合わせ、「お誕生日おめでとう。。」とやってきたサラリーマンの誕生日を祝ったのでした。あー何としゃれた誕生祝い。昼下がりの午後のひととき、一流のケーキと一流のシャンペン!。。しかも、仕事の合間のつかの間。

「あー僕は一本取られた。フランス人の僕でさえ思いつかないのに、ほんのひと時のシャンペンとケーキのお祝いなんて。。。」

夫のかすかな嫉妬を交えた深いため息が聞こえたのは気のせいでしょうか。